平成２０年度　地球にやさしい環境づくり都民フォーラム

地球温暖化　～さらなる取り組みを～

平成２０年１２月１日（月）１３時から１５時３０分まで

都民ホール（都議会議事堂１階）

司会（金森房子理事）

それでは長らくお待たせいたしましたけれども、ただいまから、平成２０年度「地球にやさしい環境づくり都民フォーラム」を開催させていただきます。

私は本日の司会を務めます東京のあすを創る協会理事の金森と申します。よろしくお願いいたします。

本日のテーマは「地球温暖化～さらなる取り組みを～」となっております。ちょうど省エネ月間がスタートいたしましたが、自分ができることから取り組むためのヒントというものをきょういろいろと得られることと思います。

では、まず本日の主催者である社団法人東京のあすを創る協会の市川芳正会長からごあいさつを申し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

あいさつ（市川芳正会長）

皆さん、こんにちは。東京のあすを創る協会の市川芳正でございます。本日は年末の大変お忙しい中、皆様方、都民フォーラムにおいでをいただきましてまことにありがとうございます。主催者を代表して、一言ごあいさつと御案内を申し上げさせていただきたいと思います。

まず初めに、今回の大会もこれまでと同じように、東京都環境局さん、財団法人あしたの日本を創る協会さんに御共催をいただきました。また、ＮＨＫさんには御後援をいただいております。そして今年度は新たに東京都地球温暖化防止活動推進センターさんにも御後援をちょうだいいたしました。関係の皆様方に改めて深く御礼を申し

上げたいと思います。

また、本日おいでの会員の皆様方を初め、協会関係の方々には、日ごろから私ども協会の事業につきまして、大変な御支援そして御協力を賜りましてまことにありがとうございます。本席をおかりしまして、心から御礼を申し上げる次第でございます。

このフォーラムでございますが、平成１０年から環境問題に取り組んでおりまして、昨年度は「今、地球が危ない、どうする、私たちの暮らし」というテーマで地球温暖化の問題を取り上げたものでございます。地球温暖化というのは、私どもより皆さん方がよく御承知のように、ゲリラ的な豪雨でございますとか、そういったものに伴う異常気象の頻発、そして食糧生産が大変困難になっています。あるいは海氷減少による海面上昇のために島の埋没といったようなことはお聞きになっていると思いますが、等々、やはり人類の生存そのものを脅かすような危機的な現象が生じているわけでございます。

このような地球温暖化をもたらしているのが二酸化炭素、CO_2を初めとした温室効果ガスの大幅な増加でございます。日本の温室効果ガスは 1990 年、約２０年前ということになりますか、そのあたりに比べて、今年の 2008 年から 2012 年までに６％を削減するということが御案内の京都議定書で約束をいたしておりますが、排出量は残念ながら増加の一途をたどっておりまして、削減計画はまことに危機的状況にあると言われております。

我が国が京都議定書の約束を達成するためには、２０年前、1990 年に比べて３０％以上増えている家庭からの二酸化炭素の排出量をいかに減らすか、そのことも大きな課題の一つでございます。政府は一人当たり一キロのCO_2を減らそうという運動を呼びかけているわけでございます。今回も地球温暖化の問題を取り上げまして、「地球温暖化～さらなる取り組みを～」ということでテーマを設定いたしております。

本日は、初めにＮＨＫ解説委員の今井純子氏に「CO_2、一人一日一キロ削減挑戦体験」を御報告願いまして、その後引き続いてシンポジウムでは、参加された皆様方がまず自分でできることから始めていけるようにということで、それぞれのパネラーの方々に具体的な取り組みを議論していただけることになっております。

地球温暖化防止の取り組みはもちろん待ったなしという事態でございます。暮らしの中から省エネなどで温暖化をもたらす要因となっている温室効果ガスを減少させること、このことが一番重要なのは、何といっても今すぐに実践を進めるということであろうかと思っております。ここにおいでの生活学校、生活会議はもちろんのことでございますが、ＮＰＯ法人など、社会のさまざまな分野で地球温暖化の問題に対する取り組みが行われているわけでございますが、できることから、お一人お一人がCO_2削減を始めることが求められているわけで

ございます。このかけがえのない地球環境を守って、２１世紀に生きる子孫に美しく、健康な地球を引き継ぐことは、今さら言うまでもなく私たちのまことに重要な使命でございます。

本日のシンポジウムでの成果を地元にお持ち帰りいただきまして、皆様方の暮らしをどう変えていけるかを工夫していただき、そしてこれからの運動に御活用いただければまことに幸いと思っております。

本日は、大変お忙しい中を多くの皆様方がお集まりくださいましたことに心から御礼を申し上げて、開会の言葉と御案内にさせていただきます。本日はよろしくお願いをいたします。

司会　市川会長、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、御来賓を御紹介させていただきます。皆様方からごらんいただいて右側にお座りのお三方でございます。

最初に、本フォーラムを共催していただいております、財団法人あしたの日本を創る協会の高岡理事長様でいらっしゃいます。

次に、当フォーラムを今回から後援いただきました、東京都地球温暖化防止活動推進センターとして東京都から指定を受けております財団法人東京都環境整備公社の尾井幹男理事長様でございます。

同じく、渋井信和常務理事様でございます。ありがとうございました。

続きまして、主催者側の御紹介をさせていただきます。

まず、先ほどごあいさつをいたしました市川芳正会長でございます。

次に、茅野祐子副会長でございます。

同じく、柴俊男副会長でございます。

次に、菊地和則事務局長でございます。

以上、御来賓及び主催者側の御紹介をさせていただきました。

以上をもちまして、開会の行事を終わり、御来賓の皆様から御降壇をお願いいたしたいと思います。ありがとうございました。

それではシンポジウムの前に、**今井純子**さんから、先ほども御紹介がありましが、**「CO_2、一人一日一キロ削減挑戦体験」**について、２５分ほどの御**報告**をいただきます。

今井さんは**NHK解説委員**として、NHK朝のニュース内の「おはようコラム」、あるいは昼の「スタジオパークからこんにちは」の「暮らしの中のニュース解説」等でも皆様はおなじみのことかと思います。

お忙しいところを本日は御出席いただきまして、本当にありがとうございます。それでは御報告のほどをよろしくお願い申し上げます。

報　告

CO_2一人一日一キロ削減挑戦体験

*NHK*解説委員　今井純子氏

皆様、こんにちは。御紹介いただきましたNHKの解説委員をしております今井と申します。普段はテレビやラジオを通じまして、今も御紹介いただきましたけれども、主に経済の分野の解説をしております。ただ、経済といいましても、家計ですとか消費に近いところの問題を扱わせていただいておりますので、そういった立場からきょうのテーマであります地球温暖化の問題、環境の問題、そういったことも時々扱う機会を持っています。

きょうは、さらなる取り組みをというテーマでもございますし、自分自身がたくさんの専門家の方々からどういった取り組みができるのかということを学び、皆様方と一緒に勉強できたらいいなと考えております。

最初に、シンポジウムに先立ちまして、先ほども御紹介がありました「CO_2、一人一日一キロ削減挑戦体験」というテーマでお話しさせていただきます。

これは、我が家で今年の６月から７月にかけて実行した取り組みなんですけれども、７月の初めにＮＨＫの「双方向解説・そこが知りたい」という特集番組で、環境問題を取り上げました。その番組の中の企画の一つとして我が家で取り組んでみたものです。

なぜこういう取り組みをしたのかということをまずお話ししますと、先ほども市川会長のごあいさつの中でもありましたけれども、今、家庭部門でどうやって二酸化炭素の排出量を減らしていくかということが、国を挙げての大きな課題となっています。そして政府が一人一日一キロCO_2を減らす取り組みをしようじゃないかということを呼びかけておりますので、その一人一日一キロというのは一体どの程度のものなのか、大変なのか、簡単なのか、実際取り組んでみようじゃないかということで取り組んでみました。

まず、どうやって取り組むか。やみくみに取り組んでもしょうがないので、後ほどのシンポジウムにも御参加いただきます省エネルギーセンターの山川さんに御協力をお願いしました。

そこで言われたのが現状把握。一体自分の家庭でどれだけ二酸化炭素を排出しているのか、それを調べるところから始めましょうということで、御指示をいただいて、まず１週間分の電気とガスと水道と車のガソリンの使用量とごみの排出量をはかりました。

電気と水道とガスについてはメーターです。１週間分、どのぐらい使ったかということをはかりました。次はガソリン。これは最初満タンにしておいて、１週間普通に生活して走って、それでまた満タンにしてどのぐらい使ったかということをはかりました。そしてごみですね。夏場で大変だったのですけれども、１週間分の生ごみを全部ためまして、重さをはかりました。その上で、山川さんに、我が家ではどのぐらいCO_2を出しているのかということを計算していただいたんです。

その結果、１日に 10.95 キロの二酸化炭素を出しているという推定が出ました。一人一日一キロ削減です。我が家は４人家族ですので、10.95 キロから４キロ減らすというのが目標となりました。

次に、ではどうやって減らすのか、その計画をつくることになりました。どこを減らすかなんですが、もともと我が家は共働きで、子供たちも日中は学校や保育園に行

っていますので、昼間は電気を使っていないわけです。それなりに節約しているつもりで、電気はこまめに消していますし、明かりも消していますし、テレビや電子レンジも主電源を全部切っていますし、電気ポットも保温ポットではなくて、一回一回沸かすものを使っていますし、温水便座は家にありませんし、ＤＶＤもありませんし、自動食器洗い機もありませんし、パソコンも自宅ではほとんど使わず、全部コンセントを抜いていますし、週末の買い物もほとんど自転車で行っていますし、うちは削減できる余地はないですよと山川さんにお話ししていたんですね。

もともとだれがこの取り組みに挑戦するかで、解説委員室の中でも押しつけ合いがありまして、そのたびに、うちはだめです、減らせませんよというふうに言っていたのですが、とにかくやってみろということでやってみたんです。

ところが、山川さんといろいろと話をしていると、うちの 10.95 キロというのは、日本では大体１日の１人当たりの平均二酸化炭素排出量が６キロだそうで、そうすると４人家族だと２４キロが平均ですので、10.95 キロは平日昼間家にいないということを考えてそこそこなのかなということですが、ただ、「電気代が異様に高いです。物すごく高いですよ、今井さん」と言われまして、こんなにこまめに節約しているのに、何で高いんだろうということになりました。

そこで、山川さんに実際に自宅に来ていただいて、うちにどういう家電製品があって、どういう使い方をしているのか、それを見ていただきました。そして一つ一つの家電製品について、電力消費量を調べてみたんですね。

その結果、わかったことが、まず何といっても電気を使っていたのが冷蔵庫だったんです。これは１３年使っている古いタイプで、もともと省エネタイプではありませんし、古くて夏場はなかなか冷えないのです。ビールも冷えないので、全部、強、強、強に設定をしてたんです。これが相当二酸化炭素を出しているというのがありました。

２つ目が照明です。我が家のみんなが集まる居間ですが、日当たりが悪くて、白熱電球が９個あります。その白熱電球は平日も朝はつけていますし、休みの日はもう朝から一日中つけっぱなしにしています。これも相当電気を消費しているということがわかりました。

３点目が浴室のカビを防止するための天井に組み込まれているタイプの換気乾燥機でした。夫が夜遅く帰ってくるもので、家族が朝晩に分かれてシャワーやおふろに入っていて、そのたびに６時間、合わせて１２時間、一日のうち半分はその換気乾燥機が回っていたんですね。これも相当電気を使っていました。

４点目が洗濯機でした。子供の保育園の必需品、おむつカバーやタオルなどがあるので、私はもったいないという気持ちで、できるだけ点数を買わずに、数少ないものを毎日洗濯して使っていたのです。その結果、洗濯量が少なくても毎日とにかく洗濯乾燥して、土・日は１日２～３回ずつ洗濯をしていたので、それがやはり電気を使っているということがわかりました。

では、そこからどうやって減らしていくかということで、計画をつくってもらいました。まず１点目は電球です。白熱電球から電球型の蛍光ランプに取りかえる。これは１つ当たり消費電力が５分の１になると

いうことでした。２点目が、家族がシャワーに入る時間帯をまとめて浴室の換気乾燥機の作動時間を減らす。３点目は、洗濯物がほぼ満杯になるまで待って、それから洗濯・乾燥をやるようにして、回数を半分に減らす。４点目、できれば冷蔵庫を買いかえる。というのが計画の中身でした。この４つとも取り組むと、１日当たり 5.3 キロCO_2排出量が減るという計算でした。

実際にどうしたか。まず白熱電球です。居間だけではなく、ついでにということで廊下やトイレも全部かえました。値段は白熱電球の１０倍、全部で１万円以上かかりました。これは会社の企画ですけれどもちゃんと自腹を切って出しました。すぐ明るくなるタイプではなかったので、子供たちが家に帰ってきて電気をつけると、暗いねえと言っていたんですが、何とか続けました。

２点目は浴室の換気乾燥機です。夫が帰ってくるのが夜中の２時、３時なので、どうしてもすぐ寝てしまって、朝、シャワーを使うので、仕方がないので、家族全員が朝にシャワーを浴びることにしました。夏場だったので思わぬ副作用がありました。子供たちがすぐにあせもになったんですね。しょうがないので夜はふいてやって何とか乗り切りました。

洗濯はほぼ満杯になってからまとめてやることにしました。おむつカバーやタオルは買い増しをしました。その結果２日に１度程度の洗濯の回数になりました。

４点目は冷蔵庫です。１０万円以上しますし、すぐ買いかえというわけにもいかないとごねまして、とりあえず、そのかわりにマイカーの使用を自粛するということにしました。実はこれが大変で、保育園と学童保育を回ると１日に１０キロぐらい走るのです。それを歩きとか自転車、バスにしましたので、その期間、会社を１時間早目に帰らせてもらって取り組みました。

この計画を１週間実行して、そこでまた先ほどいった電力、水道、ガスをはかって二酸化炭素の排出量を推計しました。その結果、もともと 10.95 キロ排出していたのが 7.26 キロ､つまり１日当たりおよそ 3.69 キロ、3.7 キロの削減に成功しました。目標はさっき言ったように４キロです。達していないんですけれども、これで冷蔵庫を買いかえると多分 2.4 キロ減って、合わせると６キロ削減できるだろうということでした。

この内訳ですけれども、効果が高かった順番に言いますと、白熱電球を取りかえたので１日１．５キロのマイナスです。マイカーに乗るのをやめたことでマイナス０．９キロ。次に浴室の換気乾燥機です。ここでマイナス０．８キロ。洗濯の回数を半分にすることで１日当たりマイナス０．６キロという効果でした。

１週間体験して、やはりシャワーの時間を朝にまとめたり、洗濯を控えたりするのはそう簡単ではないなと、なかなか一人一日一キロは容易ではないことを実感しました。ただ、これは実際に取り組んだ、3.69 キロの削減だけでも、１カ月当たりガソリン代、電気代は 3,000 円ぐらい減るということを山川さんに伺いまして、さらに冷蔵庫を買いかえると、１０万円以上かかるんだけれども、それだけで１カ月 4,000 円減りますということで、３年で元が取れますということを言われて、頑張ればそれだけのお得感はあるのかと思いました。

ここまでが７月に放送した段階での取り

組みです。その段階では冷蔵庫はまだ使えるしもったいないということで、ちょっと考えますということを放送で申し上げたんですが、実はその後どうなったかです。放送の翌日に冷蔵庫が壊れました。まるで放送を聞いていたかのように、翌日家に帰ったら牛乳がヨーグルト状になっているんですね。ああ、もうこれはだめだと、冷蔵庫が自分で壊れてくれたと思いまして、あわてて省エネタイプに買いかえました。

これにあわせてエアコンも買いかえました。このエアコンも今年の初めぐらいからガーガーと異様な音を立てるようになっていたので、安全上も問題があるかなと。これも１３年使っていたものですが、それも合わせて買いかえました。

一方、マイカーは自粛するのはやはり無理なものですので、これは断念しました。その他の取り組みは今も続けています。

その結果ですが、１０月の電気使用量は去年と比べて３２％減りました。驚いたことに、１１月は、暖かかったので暖房を使わなかったということもあるのかもしれませんが、５０％、半減しました。電気代が上がっている中非常に助かって、山川さんには非常に感謝しています。

このように目に見える効果が上がってくるとだんだん調子づいてきまして、さらにもっとやってみようかなということで、きのうは家のガラスに断熱シートを張りまして、これからもなるべく暖房を使わずに取り組んで、どこまでこの５０％マイナスが続けられるのか、挑戦してみたいなと思っています。

取り組んだ感想ですけれども、一つはやはり何といっても省エネ家電への買いかえ効果が非常に高いということを実感しました。今、一般的にエアコンは１２年前と比べて４０％、冷蔵庫は５０％省エネ化が進んでいると言われていますけれども、それを本当に実感しました。

この省エネ家電の買いかえについては、私自身も冷蔵庫が壊れるまでは、まだまだ使えるのにもったいないかなと思っていたんですけれども、その後でいろいろと調べてみました。例えば北九州市立大学の松本教授が試算をされているんですけれども、96 年、つまり１２年前に製造されたエアコンであれば、新しいのに買いかえて 4.8 年たてば、古い製品を使い続けるよりもその時点で排出量が減らせるということです。

古い家電製品は安全性の問題があり、１５年ぐらいたつと発火の恐れがあります。うちもテレビから煙が噴いたことがあるんですけれども、これも１５年ぐらいたったものでした。やはり古い製品で、そろそろ買いかえ時かなと思ったときには、買いかえる方がCO_2削減という意味でも非常に効果があるのではないかと思いました。

２点目は、こつこつの節約。積み重ねが非常に大事だなと思うんですけれども、またそれでお得になるという感覚が非常に大切かと思いました。ただ、私のように、一生懸命節約しているつもりでも、見当違いのところで、見当違いとは言わないかもしれないんですが、大所を見ていない可能性があります。そういう意味では自分の家ではどこからが排出量が多いのか、どこで電気を使っているのかということをきちんと見える化ではかることが第一歩なのかということも感じました。

感想の３点目は、さっきのマイカーの話にもありましたけれども、会社を含めた社会の理解やライフスタイルの変化というの

がないとマイカーの自粛というのは難しいのかなと思います。先ほどは学童にバスで迎えにいったと言ったんですが、その後我が家の前から学童に行くバスがなくなってしまったのです。だから、今、この実験をすると、もっと大回りをしたり、バスの乗り継ぎをしたりしなければいけなくなります。そういう公共機関の整備という点もあるし、会社から早く帰れるようにするとか、公共交通機関のある時間帯に帰れるようにするとか、そういった社会のライフスタイルの問題というのもあるのかと思いました。

そういうことで、私の話はすごく速くて駆け抜けましたけれども、この夏以降体験してみた具体的な体験の報告というものをさせていただきました。長時間、ありがとうございました。

司会　大変生活実感にあふれる御報告をありがとうございました。また後ほどのシンポジュームでもいろいろとお話をお聞きできるのではないかと思います。

それではこれからシンポジウムに入りますが、会場の準備に少々お時間をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

その間に３つのお願いをいたします。

一つはこの開会前にもお願いしたことでございますが、それ以降に御出席の方もおられるようでございますので、重ねてでございますが、いすの上に書類等を置く際には御注意いただきたいということです。いすにお置きになりますと、いすと床のすき間から床下の機械室に落ちてしまうことがありますという注意事項でございます。

それから２つ目は、本日の配付資料の中にアンケート用紙が入っております。ブルーのプログラムの中にアンケート用紙が１枚入っております。これに御記入をいただきまして、お帰りの際にはぜひ出口のアンケート回収箱にお入れいただきたい。私どもの活動の参考にさせていただきたいと思っておりますので、ぜひ御協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

３つ目は、シンポジウムの後半で、本日の登壇者との質疑応答の時間を予定しておりますので、活発な御発言をいただけますように、今から御準備をしていただきたいというお願いでございます。

お願いは以上でございます。それではシンポジウムの準備ができたようでございます。本日のシンポジウムのコーディネーター、パネラーの御紹介を申し上げます。

本日の**コーディネーター**は、先ほど御報告をいただきました**ＮＨＫの解説委員**の**今井純子**さんでございます。

次に、**パネラー**として、**財団法人日本環境協会専務理事代行**の**高木宏明**さんでございます。よろしくお願いいたします。

次に、**財団法人省エネルギーセンター企画広報部長**の**山川文子**さんでございます。よろしくお願いいたします。

次に、**株式会社ローソン**の**執行役員でＣＳＲ推進ステーションディレクター**の**篠**

崎良夫さんでございます。よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、**東京都環境局都市地球環境部の温暖化対策担当副参事の岡部祐一**さんでございます。よろしくお願いいたします。

なお、経歴等の詳細につきましては、皆様のお手元に配付しておりますプログラムに御紹介をさせていただいておりますので、どうぞ、御参照いただきたいと思います。

それではコーディネーターの今井純子さん、よろしくお願いいたします。

パネルディスカッション

地球温暖化

～さらなる取り組みを～

今井純子氏（コーディネーター）

引き続き、よろしくお願いいたします。

先ほどもお話が出ていましたけれども、京都議定書の約束期間がスタートしました。日本も６％の削減義務を負っているということですけれども、昨年度の排出量はまた増えまして、過去最悪となりました。

多くの御家庭の皆さんあるいは企業の皆さんも地球温暖化問題に取り組まなければいけないということで、いろいろと取り組んでいらっしゃると思います。それなのに、どんどん排出量が増え続けてしまう。これは一体どういう課題があって、逆に私たち一人一人がどういうことをしていけば減っていくのか、その辺のヒント、それをきょう、この場で、皆さんにお話しいただく中から何か見つけて家に持ち帰って実行できないか、考えていければと思っています。

まず四方に自己紹介を兼ねて、それぞれどういうお立場でこの問題に取り組んでいらっしゃるのか、また温暖化の現状について、どういう認識、問題意識を持っていらっしゃるのか、お伺いしたいと思います。まず高木さんからお願いいたします。

高木宏明氏（パネリスト）

財団法人日本環境協会の高木でございます。財団法人日本環境協会というのは、「こどもエコクラブ」とか「我が家の環境大臣」とか「エコマーク」とか、そういった取り組みをやっているところでございますが、あわせて全国地球温暖化防止活動推進センターに指定されておりまして、私自身は、この８月まで５年間ほど全国地球温暖化防止活動推進センターの事務局長として、いろいろな普及啓発ですとか、神谷町の方にストップおんだん館というものがございますけれども、そういう環境学習施設の設立運営といったようなことに携わってまいりました

この５年間、なかなか意識が高まらないところもありましたけれども、先ほど御紹介がありましたように、2008 年、今年から、正確には日本の場合は年度がありますので、二酸化炭素、メタン、一酸化窒素については 2008 年４月から約束期間が始まっています。それからフロンの代替物質で人工物質が３つあるんですけれども、そちらの方は 2008 年１月からというような扱いで、ちょっとややこしいんですけれども、統計の関係上、そういったような話になっています。

御承知のように６％削減しなければいけないということですけれども、これは 2008 年から 2012 年までの５年間の総量であります。既に基準年の排出量を条約の事務局の方に提出してチェックを受けて、登録されています。基準年の排出量を５倍したものに対して 2008 年から 12 年の５年間の総量で６％低いところまで削減しなければいけないというようなことです。

達成できなかったらどうするのか。ちまたでは難しいのではないかとかいろいろと言われておりますけれども、削減できなかった量の１．３倍を次の約束期間に繰り越して、余分に削減しなければいけないというルールになっております。

今、そういう削減が動いているわけですけれども、６％削減すれば温暖化問題が解決するかというと、そういうことではなくて、これは温暖化対策のほんの第一歩です。今後引き続きさらに削減しなければいけないということで、今、2013 年以降の温室効果ガスの削減をやっていくための国際的な枠組みをどうしていくのかということが議論になっていまして、この前の北海道洞爺湖サミットでもそれが一つのテーマでありました。

きょうから気候変動枠組み条約と京都議定書の締約国会議がポーランドの方で始まっております。そこで削減についてのいろいろな議論があって、来年の１２月にデンマークのコペンハーゲンで条約と議定書の締約国会議が開かれるわけですけれども、そこで今後の将来の削減について合意をしようということになっています。

今、2020 年ぐらいまでの中間的な削減目標とか、2050 年までの長期的な削減目標というようなことでいろいろな数値が踊っていますけれども、そういう形でかなりドラスティックな削減目標を決めていこうということで、本当に首脳レベルの政治課題となって今進められております。サブプライムローン問題で経済がかなり冷え込んできておりますので、そこはどういう影を落とすかよくわかりませんけれども、そういった流れが一つあるということであります。

2050 年までに５０％とか８０％の削減というのは一体どういうことなのかというのはなかなか想像もつきませんけれども、先ほど今井さんの方から御紹介がありましたように、2007 年度の排出量は基準年に比べると 8.7%ぐらい多かったのです。６％下げなければいけないのに 8.7%多くなる。

2007 年度は基準年に入っていないですからいいのですけれども、相当の努力をしないと６％の削減は大変だということであります。

私たちの日常生活と関係するのは、二酸化炭素ですね。家庭からの二酸化炭素排出量は日本全体の排出量の大体１３％です。運輸部門というのが大体全体の２０％ですが、そのうちの７％分ぐらいが自家用車ですね。それと１３％を合わせると、大体家庭から排出されている二酸化炭素の量というのは全体の２０％ぐらい。残りの８０％は自治体であるとか企業であるとかの活動によって排出されているということでございます。２０％が小さいか大きいかという議論はありますけれども、我々ができる範囲というのは２０％をいかにしていくかということですので、そこに力を入れていかなければいけないということです。

今井　ありがとうございました。今もお話がありましたようにきょうからＣＯＰ１４が開かれていますが、経済状況が悪化してきている中で太陽光なんかの投資も世界的に随分減ってきていて、口では環境が大事と言いつつ、世界的にどうも温暖化問題どころではないという雰囲気も出てきているということです。一方で押しつけ合いですね。どこの国がどこの地域がどこまで削減するのかという押しつけ合いも相当行われています。ただ、現実の話を伺っていますと、もうそんなことを言っている場合ではなくて、とにかく足元、できるところから取り組んでいかなければいけないという状況ではないかと思います。

次に岡部さんにお願いしたいんですけれども、最近政府だけではなくて、自治体が独自の温暖化対策をとる例が非常に増えてきています。その中で、今年やはり全国的に大きな注目を集めたのは東京都の条例ではないかと思いますが、その具体的な施策の内容もあわせてお願いできればと思います。

岡部祐一氏（パネリスト）

東京都環境局都市地球環境部温暖化対策担当副参事の岡部です。ちょっと役職名が長いですが、何をやっているのかといいますと、主に温暖化対策で中小企業対策と家庭対策の方を担当させていただいております。プロフィールが短くて申しわけないんですけれども、現職に着任したのは今年の７月でして、東京都には随分長くいるんですけれども、それまでは、まさにディーゼル車を規制したときの規制部隊で２年ほど環境局にいましたけれども、それ以外は全く違った部署の方をやっておりました。環境につきましては、特に家庭対策につきましては、今、自分自身も勉強しながら省エネ対策の方を考えているといったところでございます。

温暖化に対する認識でございますけれども、先ほど来ありますけれどもＩＰＣＣの報告書におきましても温暖化を疑う余地はないと断定されておりまして、またそれが人間活動に起因するものであるということがほぼＩＰＣＣでも断定されてございます。先ほど会長からもお話がありましたが、海面が上昇していたり、気温が上がっていたり、そういうのが人間活動に起因するというものであるならば、人間活動によってそれに対応していかなければならないのでは

ないかと考えてございます。

温暖化に伴う気候変動の危機というものを東京が直面する最大の危機と考えてございまして、この危機を回避して、都民が安心して暮らせる町をつくっていくため、それを将来世代に引き継いでいくためには、直ちに温室効果ガスに対する大幅な削減を目指す取り組みを本格化させなければならないというのが東京都の認識でございます。

今年の３月に東京都環境基本計画というものを改正させていただきましたけれども、東京都におきましては、2020 年度までに 2000 年比でCO_2の排出量を２５％削減するという目標を掲げさせていただきまして、現在さまざまな施策に取り組んでいるところでございます。

東京都の二酸化炭素の排出状況を簡単に御説明させていただきますと、2005 年度の排出量は 5,747 万トン、これはいろいろな統計がありますので大体 6,000 万トン排出されているというふうに考えていただければいいと思います。先ほどお話がありました全国の排出量で言いますと、約１３億トンが出ていますので、東京都はそのうちの４～５％排出しているということでございます。

また 2005 年度の東京都の排出量は約 6,000 万トンでございますけれども、1990 年に比較いたしますと約６％増えております。特に業務部門で 1990 年に比べて 2005 年は約３３％、また家庭部門におきましては約１６％増加してございまして、業務部門と家庭部門に対する対策が急務だというように考えてございます。

そこで、今井様からお話がありました業務部門の対策としまして、今年の６月でございますけれども、都議会の第２回定例会では全会一致で環境確保条例というものを改正させていただきました。今回の改正の最大のポイントは、世界でも初めてオフィスをも対象とした温室効果ガス排出総量の削減義務と排出量取引制度の導入、これが最大の目玉でございます。

今も地球温暖化対策計画書制度というのがありますが、これは 2000 年に環境確保条例を改正させていただきまして、2002 年度から計画書を大規模事業所の方に出していただいております。大規模事業所といいますのは、原油換算にして年間大体 1,500 キロリッター以上の使用がある事業所さんを大規模事業所と呼ばせていただきまして、そのような計画書を今も出していただいているんですけれども、あくまでも計画書提出は義務でございますけれども、削減については義務を課しているものではございません。

それによって各会社様も事業所様も大分取り組みをやってきておりまして、大分減らした事業所もあるんですけれども、全体を見ますと約８割の事業所は基本計画の策定にとどまってしまって、そこからの底上げというのがなかなか難しいという状況にございました。そこで、今回の条例改正におきまして、総量削減義務と排出量取引制

度というものを導入させていただいたということでございます。

今回義務を課して総量削減に取り組んでいただきますのは、先ほど言いました原油換算で 1,500 キロリッター以上使用している事業所で、これが大体都内に 1,300 ございます。東京都の二酸化炭素排出量の５０％弱を産業業務部門全体で排出しているんですけれども、その約４割がこの 1,300 ぐらいしかない事業所で排出してございます。残りの６割が７０万ぐらいあります中小規模の事業所から排出されているというのが実体でございます。

1,300 でそれだけの量を排出しているということですから、この 1,300 の事業所に取り組んでいただくというのは大変大きなことでございます。そのため、この 1,300 の事業所に関しまして、削減の義務ということで、今まで出していただいた計画書をもとに義務の方を決めさせていただきまして、その節減に取り組んでいただくものでございます。

ただ、もちろん自分の会社の努力で削減していただくというのが基本でございますけれども、削減量を確保できない場合におきましては、不足する分については排出量取引というもので埋め合わせることは可能だという制度にするということで考えてございます。

また、実行性を担保するということで、もし義務の履行期限内に計画削減義務が満たさない場合におきましては、措置命令、命令に違反した場合には行政代行。達成されなければ意味がありませんので、東京都がかわりにその分のＣＯ$_2$排出権を購入いたしまして行政代行をしまして、その分の費用等を達成できなかった方に請求する。また達成できなかった会社に罰金等の措置を行うというようなことを制度として盛り込んでございます。

これについては現在規則等を定めているところでございまして、今年度中におおむね削減量についてはお示しして、来年度以降、実際の提出は再来年の４月から施行されるということでございます。

これらは義務化でございますけれども、６月の条例改正では義務だけではなくて、先ほど言いました７０万の中小規模事業所については任意の報告書制度ということで、こちらは削減の義務はかけませんけれども、自分の会社がどれぐらいＣＯ$_2$を排出しているかということを認識していただきたいというところから、任意の報告書制度というものをあわせてつくらせていただいております。今井様からもお話がありましたように、家庭においてもどれぐらい自分が出しているかいうことに気づかないのと同じで、中小規模事業所の方の中にはやはり自分の事業所からどれぐらい出ているかということがわからないという事業所も多うございますので、今回の条例改正で報告書という制度をつくらせていただいております。

ただ、全部が任意かといいますと、こちらについては、都内にある事業所を幾つもお持ちで、その排出量の合計が一定以上になる方については報告をしていただくことを義務づけということで行わせていただいております。この制度につきましても、年度内に規則等を整理いたしまして、再来年度から来年度分の認識した数字で御報告いただくということで現在準備を進めているところでございます。

簡単ではございますけれども、今年の条例改正、東京都の取り組みを御報告、御説

明させていただきました。よろしくお願いいたします。

今井　岡部さん、簡単で結構なんですが、政府だけでなくて自治体がこうした対策をとる意味というのはどういうところだとお考えですか。

岡部　国は、省エネ法、自主行動計画等で、原単位で１％削減ということで掲げておりますし、あと、現在取引制度の方が始まっておりますが、義務、削減量は任意で決めるということになっています。義務をかけるというのは本当に東京都が初めてやっていることでございますけれども、世界的に見ても削減待ったなしということで、そういった取り組みを東京都が率先して、自治体の方からさせていただいているという面があるというふうに思っております。

今井　ありがとうございます。国がなかなかできないでいるところを自治体の方で先行してやって、ある意味、おしりをたたいているというか、リードしていくという役割があるということですね。ありがとうございます。

篠崎さんにお願いしたいのですが、コンビニ、業務部門ですけれども、コンビニからの二酸化炭素排出量も大分増えているというふうに聞きます。これはどういう背景があるのか、またこの問題に今どういう認識で取り組んでいらっしゃるのかをお話しいただけますでしょうか。

篠崎良夫（パネリスト）

何で増えているのかということですが、認識の方から言ってもいいですか。

今井　はい。

篠崎　まず何で増えているかと申しますと、どちらかというと、今は増えているというより横ばいという感じかなと思っております。一番増えているのは店舗数が増えているというのが一番大きな原因でございます。原単位当たりでは 90 年度からずっと減らしてきているということになっています。ローソンの内容につきましては、皆さんにお配りしております当社の環境報告書の１６ページ、１７ページに詳細を書いておりますので御確認いただきたいと思います。

とりあえず私のプロフィールをパンフレットの方にきちんと書いていただきましてありがとうございます。こちらの方を見ていただければわかると思いますけれども、私はダイエーからローソンということで、この中でもずっと商品とか運営という部分に、いわゆる現場というか、そちらの方ばかりやってまいりました。

この間あるインタビューで、今まで環境に熱心でいいことはどんなことをやってき

ましたかと聞かれて、済みません、私は、現場でおにぎりを売れ、もっと売れ、たくさん売れというような話ばかりしてきて、余りいいことをしてまいりません。悪いことをしたということではないですけれど、むだをなくそうとかそういうことではなく、売り上げをどうやって上げるか、お客さんに買ってもらうためにはどうしたらいいかということばかりをやっておりました。３年前にＣＳＲということでこちらの方に移ってきて今までいろいろなことをやってきました。お弁当をつくったり、発注したりしてきましたけれども、今はどちらかというと、それをむだにしないで、エネルギーをどう減らすかということで、罪滅ぼしでこういうことをやっておりますということをお答えしたようなことがございます。

昨今、先ほどからも出ておりますけれども、地球の温暖化というのが環境問題の中でも一番のテーマかなというふうに思っております。きょうのこの中で企業として出ているのは私だけです。御家庭でこういうことをしてくださいということよりも、どちらかといいますと、企業として何をするかということです。

認識としては、冒頭、高木先生の方からもお話がございましたけれども、物すごく今大きな変化が出ているときだろうと思っています。どういう変化かと申しますと、新しい価値観が生まれてきているということです。どんな価値観といったらもうおわかりと思いますが、CO_2を減らすのがいいことで出すのが悪いことだと。多分皆さんは意識していないかもしれませんが、この新しい軸が今もう生まれてきている。これに企業としてはまず気がつかなければいけないと思います。

私どもは、僕はお客様に受けることばかりやらなければいけないと思ってずっとやっていますので、お客様がどう変化しているかというと、こういう集まりがあってこれだけの皆さんがいらっしゃって、温暖化について本当に興味を持っているということは、どんどんそちらの方に行くだろう、行っているなという実感を非常に強くしています。

もっとこれを真剣に考えますと、皆さんも既に５０％だとか８０％という削減目標がもう頭の中にありますね。福田首相は2050 年で６０～８０ともう言いましたよね。世界はみんな８０％と言っていますね。ヨーロッパは、オバマなんかはそう言っています。

では何か起きるんですかと。冷静に考えたら、８０％減らすということは、早い話、化石燃料、化石燃料というのは石油、石炭、天然ガス、これが８割減るということなんです。あと５０年たったらそういう生活になるんだと。

そして今、日本はどのぐらいかといったら、これも冒頭ありましたけれども、昨年は原発のああいう事故があったので 8.4%だったかな、増えているんです。それをマイナス６までもっているということは、

2008 年から１２年までに１４％～１５％、マイナス６まで減らさなければいけない。入り口が１４％も高かったら本当は出口のところはその倍でしょう。2012 年度は３０％ぐらい減っていないと平均してマイナス６にならないです。ましてや中期目標をどうするのですかというようなことも今出ています。

2050 年というと、多分私はもうこの世にはいないからセーフだと思っていますけれども、多分若い方は、ここにいらっしゃる方はまだ現役で頑張っていらっしゃる方はいるだろう。でもこれは実は 2050 年まで待っている問題ではないですね。いつピークアウトするのか、今増えているのをいつ下げるのか、ましてや 2008 年までにマイナスに持っていくのかというと、非常に難しいところに日本も来ているし、世界も来ている。

そしたら何が起こるか。今、東京都さんからもありますけれども、相当な圧力が企業とかいろんなところにかかってきて、とにかく減らしにかかるんだろう。それが価値観の変化という形であらわれてくるだろう。これは日本だけではありません、世界という形です。

その中で企業はどうするのかということです。余り難しく考えることはないと思います。減らすだけだということです。減らさなかったら何の意味もない。幾らああだ、こうだ、この制度はいいとか、悪いとか、納得が行くとか、行かないとか、いろんな話はありますが、東京都さんがいろんな規制を設けているものありますけれども、いろいろと御批判もあるから合っているかもしれませんが、僕も言いたいことはいろいろとあるけれども、そんなことを言うよりまず自分が減らせと。そうすれは何が起こっても平気なんです。けれども実を言うとこれはすごく難しい。

それで、私どもも目標を出しました。これも１６ページですか、１年間に７３万トンの削減を出しました。原単位でいいとか悪いとかいろいろと御批判を受けるのは十分承知していますけれども、１店舗当たり原単位で 2006 年比１０％削減するという目標を出しました。東京都さんのいろいろな規制が出る、省エネ法の対象となる、業界の規制もある、いろいろありますが、当面はこの１０％を達成すれば十分にやっていけると思います。実は５％ぐらいでも何とかなる。業界トップの私どもとしてはその目標では低いだろうということで、あえて高い目標を出しました。

ただ、ここから先どうするかというと、まだまだこれからどう考えていくかということになります。この表にもございますように、８６％が店舗の電気ということになっておりますので、まず今、私どもとしては店舗の電気の削減をするのではないかと思っております。

それからもう一つよく言われていることで、言葉ばかりが先行しているけれども、実態はどうなのかと言いたいのは見える化ということです。福田首相が見える化を推進したいということをたしか６月ぐらいにおっしゃいました。いろいろなところでカーボン・フットプリントとかという話が出ている。私どももカーボン・フットプリントはやっております。見える化というとみんなはすぐカーボン・フットプリントとか炭素表示ということを言っていますが、私は決してそんなものではないだろうと思っています。CO_2、空気は目に見えないです

ね。見える化というのは何かといったら、要は、目に見えないものを何キロとか何トンという数字で表現をするということなんです。先ほど今井さんも、私の家で何キロとおっしゃっていましたね。

ですから企業やみんながこれから削減して、東京都の目標もあって、何度も何度も削減すると言います。一番重要なのはその数字は正しいのかということです。どうやってその数値を算出したのですかということ、ぜひ皆さんもこれからいろいろな数字を見るときにそこのところを意識していただきたいと思います。

実は物すごく難しいです。大手のメーカーさんなどは、先ほどの省エネ法とかいろんな法律でもう事前の規制を受けてやっています。私どももそうです。今まで網にかかっていないところというのは、そういうことに対してその数字を集めるのは物すごく大変なんです。でもその数字がはっきりしないと、企業としてこれだけ減らすとか、こうするということが言えないんです。

ということで、特に今年、ローソンとして取り組んでいるのは、もちろん減らすという目標に対していろいろな手を打つということと、私どもが公表した数値について第三者認証という形で受けるようにしておりますので、できるだけきちんとした裏づけのある数字を外部に出していこうということを心がけていきたいと思っております。

今井　ありがとうございます。

それでは山川さん、我が家の省エネの指南役の山川さんです。なぜ家庭での消費が増えているのかという原因についてもあわせてお願いします。

山川文子氏（パネリスト）

皆さん、こんにちは。財団法人省エネルギーセンターの山川と申します。よろしくお願いいたします。

省エネルギーセンターは第２次オイルショックのころに日本全体の各分野の省エネを図ることを目的に設立されました財団法人でございます。その中で、私がおりますところは家庭の省エネを進めるための広報をする部署でして、企画広報部といいます。

私は広報の機会を企画したり、それを運営したりする仕事以外に、きょうのようなこういう場への参加、先ほど今井さんから御報告がありましたような、主にテレビや新聞などのマスコミのに専門家という立場で参加をさせていただいております。

今井さんから先ほど御報告がありましたけれども、私が今井さんとお知り合いになったのはテレビの企画で、私が今井さんのお宅を診断してどうやって省エネを図っていくかをアドバイスさせていただきました。今井さんのお宅はいろいろと省エネをおやりになっているはずなのに、なぜか電気代が非常に高くて、最初数字を聞いたときに、どうしてだろうなと大変びっくりしたと同時に、何かアドバイスをして減らせること

が本当にあるのだろうかというのをちょっと不安に感じました。

やはり冷蔵庫がたくさんエネルギーを使っているということが計ってみてようやくわかりました。お話を聞くとやはり夏は冷えなかったというような実感のこもったお話などをいただいて、ああ、これが多いエネルギーの原因だったんだなということがわかりました。きょう、１１月の電力消費量が半分になったというお話を聞いて、私もアドバイスのしがいがあったなあということで、非常にうれしく思っております。

話を家庭のエネルギー消費の話に戻します。家庭のエネルギー消費は、1973 年、第１次オイルショックの起きた年を基点にしますと、現在の消費は約２．１倍強になっています。

要因は幾つかあります。まず世帯数が増えているということです。核家族が増加していまして、２人世帯、それから東京都などは特に単身世帯が増えている。昔は３世代同居だったのが、今は２世代が普通になっているというのが現状です。２人世帯だろうと４人世帯だろうと、基本的なエネルギー利用量、つまり冷蔵庫、エアコン、テレビ、それから必要な数の照明などはどんな人数が少なくても必ず１台は備えるのが今の状況ですので、世帯数の増加というのはエネルギー消費の増加につながっていきます。

それからもう一つは、皆さんも２０年前ぐらいの暮らしを思い浮かべていただくと実感がわくと思いますが、エネルギーを利用する機器が家の中に増えてきたということがあります。

データを見てみますと、エアコンは、1990 年が一家に 1.25 台だったのが、2006 年では 2.5 台です。皆さんのお宅でもリビングルーム以外に、子供部屋だったり、寝室だったり、ほとんどの部屋にエアコンがついているというのが現実だと思います。

テレビは、90 年が２台、2006 年は 2.5 台というデータがあります。テレビは、以前は一家に１台とか２台で、同じ部屋でみんなチャンネルの奪い合いをしながら同じ番組を見ていました。ところが今は自分の部屋で自分が見たい番組を見る。場合によると違う部屋で同じ番組を見るなどということも起きているのではないかと思います。

それから昔はなかった機器が今はあるということです。例えば温水洗浄便座。これは 1990 年にはほぼ０％でしたが、今は９０％ぐらいの保有率で、ほとんどの家に温水洗浄便座がついているような状況だと思います。

それから最近出てきた機械としては、パソコン、ＤＶＤプレーヤーなどがあります。

もう一つは、昔に比べてライフスタイルが多様化してきたことが理由に挙げられると思います。先ほどテレビの話で申し上げましたけれども、同じ家族の中でも違う部屋で違うことをする。それからそれほどのエネルギーではないかもしれませんが、例えば食事に関してみても、昔は家族一緒に御飯を食べるというのが普通の光景だったと思うんですが、今は子供さんが塾に行ったりとか、お父さんはすごく帰りが遅かったりということで、何度も御飯を食べる。つまり何度も温め直しをしたり、冷蔵庫に入れたりという作業をしなければならないということで、その都度エネルギーがかかってくるということもあります。

私の温暖化及び省エネに関する認識は、今井さんのお宅の話ばかりで恐縮ですけれ

ども、今井さんのお宅のように、省エネを御自身では一生懸命やっていらっしゃるけれども、現実としてまだまだ減らせる余地があるような家がかなりたくさんあるのではないかということです。広報活動を６～７年やっている中での私の実感です。それが私どもの周知不足というのももちろんありますけれども、皆さんも何をどうすれば本当に省エネになるのかというのをやはり正確に把握しなければいけなく、その点を改善するだけでかなり違ってくるのではないかと思います。

先ほどの篠崎さんのお話にもありましたが、温暖化それから省エネに関する人々の意識というのは間違いなく高まっていることは実感しますが、では自分の家で実際にやっているかというとどうもちょっとクエスチョンマーク、それから、やっているけれどももっと効果的なやり方があるだろうというのがもう一つ、というのが私の認識です。

きょうは私の広報をやっている立場から、皆さんが思っていらっしゃる認識と正しい本当の情報とのギャップがどういうふうになっているかなど、その辺も含めてお話をしていこうと思います。

今井　ありがとうございました。今も山川さんの話にありましたように、皆さんの環境意識、企業もそうですね。柴崎さんからも話がありました企業もとにかく減らさなければいけない、家庭も何か取り組まなければいけない、意識は高まっているのになかなか成果が出ないというのが今の状態ではないかと思います。

では、次にどうしたら暮らしの中でCO_2削減の成果を出せるのかについて考えてみたいと思います。

同僚の中で、家庭でのCO_2を減らそうということで、とにかく電気一つ一つに「消せ、消せ、消せ」とぺたぺた張っていって、テレビなんかにも「消せ、消せ、消せ」と張っていったと。ところがだれもなかなか実行しない。けれども、消し忘れたら１回100 円というルールを決めたら、とたんに効果が出たという家庭があります。

こうしたように、北風がいいのか、東京都さんも今度義務化ということですけれども、北風じゃなければだめなのか、それとも太陽でも有効な方法があるのか、そういうことも含めて考えてみたいと思います。

まずは高木さんですけれども、私たちはどう考えて行動すればいいのか、ついつい自分だけやっても大した効果はないと思いがちなんですけれども、どういうふうに考えて行動すればいいのでしょうか。

高木　なかなか難しい問題ですけれども、やはり自分がやったことについての結果が見えない、それで何となく達成感が得られないというような方が多いのではないかと思います。今日ここに来られている皆様方は大体環境問題に関心を持っておられる方が多いと思いますけれども、世の中のほとんど方はそうでもないですね。皆さんのような方々に山川さんからいろいろな情報を提供していただくと、家庭でやっていただいてCO_2の削減に結びつくというようなことがあるんですね。ただ、いろんな方々に、広くやっていっていただくということが大事なのかと思っています。

そのときにどうやって結果を見せるのかというところは非常に難しい問題で、なか

なかいい方法がありません。例えば環境家計簿をつけてもらってそれを集計してみるということがありますけれども、これも企業の従業員を対象にそういうことをやられたりしている例があります。

私どもの運営する「我が家の環境大臣」というホームページがありますが、それを活用して、企業の方が従業員を対象に環境家計簿を始めたいといったようなことはありますけれども、従業員にやってもらうようにするために人的なエネルギーが相当かかるということです。そういったところの特効薬というのはなかなかないんですけれども、小さな取り組みでもやはり積み重ねていけば何らかの全体としての効果があるんだというようなことはどうにか伝えていかなければいけないと思います。

あと、やはりいろいろな人にやってもらうということが大事で、さっきの北風か太陽かということがありましたけれども、やはり苦行だとか我慢をしなさいというようなことは本当に禁句なんですね。それだけでもう逃げていってしまうというところもあります。

先ほども削減できたというお話しがありましたが、それはもともと高かったのでできたと思うんです。ある生協さんで省エネのコンテストをやったところ、一番上の人は８０％削減しましたといったことがありました。そういう方の発想を幾ら紹介しても、私にはこんなことはできませんという話にしかならないのです。だからそうじゃなくて、それに取り組むことによって、楽しいとか、得になるとか、そういうところを見つけていただかないと、なかなか定着しないというようなところがあるのかと思います。

やはり我々、腑に落ちるということがありますけれども、何か、ああ、そうか、それをちょっとやってみようかというようなところがあると行動に結びつきやすいんですけれども、そういうところがなく情報だけということになるとなかなかとっつきにくいところもあって、難しいと思います。

私どもはストップおんだん館という施設を運営しておりますが、そこではデータなどをあまり出さずに、いろいろと体験してもらったり、自分で書いてもらったりして、いろいろと気づいてもらうというようなことをやっています。一つでもそういう気づきを持って帰ってもらうと、何かをやってみようかというようなことにつながりやすいんじゃないかと思っています。

先ほど今井さんの話にありましたけれども、一つがうまくいけばもう一つやってみようかというような話になるわけですけども、そこの最初の第一歩ですね、そこをどうやって踏み出していただくかというのが非常に大きな課題なのかなと思います。

あとは、先ほどありましたが、例を言いますと、クールビズというのは、夏はネクタイを取りましょうということで、クールビズをやっている人からやっていない人に向けては、この暑いのにそんなに我慢しな

いでというようなことで、説得しやすいわけですけれども、逆にウォームビズということになると、たくさん着て、寒いところで我慢しましょうということでなかなか受け入れが難しいのですね。そういうようなことがありますので、やはり北風というか、やりなさい、やりなさい、やりなさいというようなことではなかなか進まないのかなというのが私どもの経験です。

それから、家庭やなんかでも、例えば、最近包装紙のごみが増えてきて、ここのところがどうにかならないのかなと思えば、包装紙を少ないものを買うということを実践してくれればいいんですね。見に見えないところですけれども、それだけで温暖化対策になるわけで、そういった自分の必要なところから入っていっていただくというのが一番かなと思います。余り無理せず、我慢せずということで、それでは済まないんじゃないかというようなお話はもちろんありますけれども、大勢の方にやっていただくということになると、そこら辺が大事かなという感じがします。

今井　ありがとうございます。継続性を考えると、とにかくお得になる、それを実感してやり続ける、そのための第一歩が重要だというお話だったかと思います。

一方、岡部さんにお願いしたいのですが、東京都の取り組みで、先ほどオフィスビルには削減の義務づけがあるということでしたけれども、家庭とか自動車ですね、増えていますが、この部門での義務はないわけですね。そこの部分の対策というのはどうお考えになりますか。

岡部　義務という点では、先ほどお話ししたとおり、1,300 という事業所さんは大層排出量が多いところでございますし、2000 年から既に今の計画をしているということで、十分取り組みをお願いしているという背景がございます。そういったところを踏まえて義務というのをかけているわけですけれども、先ほどもお話しした残りの報告制度で今回認識をお願いする７０万ぐらいある中小事業所、また東京都の家庭は、世帯数でいいますと約 600 万世帯になるというところですけれども、そういう家庭の方々、自動車についてもやはりそういう家庭、中小規模事業所の方がほとんどと運輸部門を占めているかと思うんですけれども、こちらにつきましても、先ほど篠崎さんから話がありましたけれども、数字としてはどれだけのエネルギーを使っているんだということすら気づいていないというか、見えていない状況があると思うんです。

先ほどの中小規模事業所に対する報告書と同じように、家庭に対しましてもいかに啓蒙というか、啓発という部分、どこがどれだけ使っているかというのが見えると同時に、どうしたら省エネ、どういう省エネの方法があるのかというような情報を渡せるようにしていくというのが一つ行政の役

目なのかと考えております。

また数字の話ですけれども、先ほど山川様の方からお話がありましたが、東京都は確かに単者世帯が非常に多うございまして、600 万世帯のうち約４割が単身世帯です。それで、CO_2の排出量の伸びという統計を見ますと、複数家庭ですと８％ぐらいの伸びなんですけれども、単身世帯ですと４６％ぐらいCO_2の増加があるというような数字もございます。このような場合、家庭の中で使われるのは６０％が電気でございまして、先ほど主に一家に何台というお話がありましたけれども、そういった家電製品の普及、特に最近は、エアコン、パソコン、温水洗浄便座などが著しいところでございますけれども、そういったところの省エネをどう啓蒙、伝えていくかというのが非常に大切なことなのかというように思います。

高木様からお話があったように、とにかく気づきを与えていく、自分なんかも就任してから大分各業界の方とお話等をさせていただいておりますけれども、例えばお店に行って会計をするときに、お店の方にレジ袋は要りますかと言っていただけることで、もしくはポスターが張ってあるのを見て、マイバッグを持ってくるっていいことなんだと気づくとか、百貨店とかスーパーなどで暑いんじゃないかなと思っても、現在クールビズに協力しているために２０何度に設定しておりますというポスターを見て、温暖化のためにこういうことをやっているんだなということで、そういう気づきというのはあらゆる機会をもって与えることができるといいますか、気づかせることができるのかなと思うんですね。

そういった意味では、行政としてもあらゆるチャンネルを使って、自分自身も気づかなければならないですし、都民の方に気づかせるような工夫をどうやって行うかというのが非常な課題だというふうに認識しております。

ただ、先ほど今井さんの方から太陽と北風というお話がありましたけれども、行政で言えば、補助金というのが一つ太陽的な意味合いがあるかと思います。東京都のこれからの取り組みになりますけれども、太陽エネルギーの飛躍的な増大ということを現在考えておりまして、来年の４月から大規模な支援の方を行う予定でございます。設備を設置した方には環境活動を買い取るという形を使わせていただきます。太陽光の発電システムに対しては、標準的な家庭は３キロと言われていますけれども、１キロ当たり１０万円、３キロで３０万程度。

また、熱関係にも補助を考えておりまして、太陽熱ソーラーシステムに関して、標準的な６平米ですと２０万円程度、太陽熱温水器について、標準的な４平米ぐらいは３万円程度、その程度の補助金を考えてございます。

こちらについては、国が復活させる補助金や市町村の補助金と併用できる予定でございまして、例えば、東京都で先ほど言いましたように３０万円、国が１キロ当たり７万円で２１万円、さらに市町村の補助が入ると、結構な額の補助金になると思います。

今まで太陽光関係は高いというのが利用を阻んでいる要因の一つにあったかと思いますけれども、200 万円以上かかるような太陽光の発電システムであっても、その３つの補助金を合わせると、相当の初期投資を抑えることができます。

また、都はメーカーや販売・施工業者などといろいろと会議等を持たせていただいております。そういうメーカーの努力等によって生産量が増えれば単価は下がりますし、また設置等においても業界の方、業者の方が量をやっていただくというようなことも可能になるかと考えております。

とにかく再生可能エネルギーの導入というのは非常に温暖化対策に有効で、大切なことでございまして、もともと日本は世界一だったものが、近年ドイツに抜かれてしまった。それを踏まえて、東京都は補助金の方を、補正予算を組んで来年からやる。国の方も補助金を復活させたという事情がございます。

そういった太陽、補助金というもので再生可能エネルギーの普及を広げるということでございます。詳細につきましては現在検討中でございまして、また決まり次第、広報やホームページで紹介させていただきたいと思いますけれども、来年度２万、再来年度で２万、計４万世帯への普及というのを考えてございまして、今、取り組んでいるところでございます。太陽ということで例を御報告いたしました。

今井　ありがとうございます。対象によって北風も吹かせるし、太陽も照らせるということですね。

次に篠崎さんにお願いしたいのですが、コンビニエンスストアをめぐっては、最近幾つかの自治体で、深夜こうこうと明かりを照らして深夜営業をしているのはもったいないじゃないか、自粛を求めようじゃないかという議論も一部行われています。これも含めて、どういう対策が有効なのか、どのようにお考えなのかを伺いたいと思います。

篠崎　コンビニに対しましては、今の深夜営業の話だけではなくて、すぐ食べられるお弁当を捨てているのはもったいないじゃないかとか、レジ袋をむだに使っているとか、いろいろなことを言われております。もちろんそれは承知しております。一つ一つ、これはこうしていますというのがありますが、余り詳しいことは言いません。ただ、これは私どもだけで 8,600 店、全部合わせると恐らく４万 5,000 店ぐらいあって、皆様のお近くにあるので非常によく目につくのだろうと思っております。うまくとらえれば、いいことをしても目立つし、悪いことも目立つのかと思っています。２４時間のみとかいろいろあるんですけれども、お弁当の話なんかもあるんですけれども、ではきちんと何がどのぐらいということを数字で皆さんはとらえて論議していますかというと、実は非常に目立つので言われるという言いわけがあるようなところであります。

例えばお弁当を捨てている食品廃棄物の問題がありますが、食品廃棄物は大体日本で 1,200 万トンぐらい出ています。その中でスーパーやコンビニの小売業が出す食品廃棄物が大体 260 万トンです。260 万トンのうちコンビニはどのぐらい出しているかといいますと、私の試算ですけれども、かなり多く見ても多分２５万トンぐらいです。ですからスーパーや小売りを合わせた 260 万トンの１０分の１ぐらいがコンビニなんです。

売上高１０万円当たりの廃棄物の量というのは、環境省の方で出された統計があり

ますが、これもスーパーよりもコンビニの方が少ない。細かな数字は省きます。だからといって決していいとは思いません。これに対してリサイクルとかその他のこと、先日もＮＨＫでさなぎの食堂とかやっていましたけれども、いろいろな形で有効利用できる方法はないかというように思っています。

このＣＯ$_2$とかエネルギーの問題は、２４時間というのも同じようなところがあるわけです。何のために深夜営業をやめなくてはいけないのでしょうかというときに、ＣＯ$_2$の問題でしたら、先ほど電気代が８６％というお話をしましたけれども、実は、空調機とか要冷機というものを削減すれば電気代以上の効果がある。電気はＬＥＤに全部今改良していますけれども、かえれば営業してもいいんですか？　少なくなれば営業してもいいんですか？　というと、決してそういう議論でもないのではないのかと思っています。いや、生活習慣の問題だとか、いろいろなところに議論がどんどん分かれていくと思っております。

ですから、何のためにやらなければいけないのか。先ほど申しましたように、私どもはとにかくお客様に合わせてやっていくしかないんです。世の中が向こうに向かっていくようになったら、だんだんそういうふうになっていくところもあるでしょう。もともとは２４時間やっていなかったのですね。セブンイレブンさんみたいに、セブン、イレブンだったわけですね。それが経済の発展とともに２４時間なってきた。今でも２４時間ではないお店もございますけれども、そういう中で、企業としてはどういうことをやっていくのかということを考えながらやってきているということでございます。

営業をやめろというのは商売をするなということですから、そうなると私どももコンビニ事業をやめなければいけないことになりますので、これはほかの業種はどうなるのかということがあります。多分そういう話ではないと思います。こういうことをすれはそれだけ何に効果があるのだろうかということをよく踏まえながらいいものを見つけることが必要ではないかと思っております。

今井　ありがとうございます。業界の試算ではたしか夜１１時に店を閉めて、７時まで閉めている、つまり１６時間営業をしても、コンビニ全体から排出される二酸化炭素の量はわずか。

篠崎　実感といて３～４％ぐらいですね。

今井　日本全体で言うと、０．０何%。

篠崎　余りそれを大きな声で言うのも。ではレジ袋は日本全体の使用数のどれぐらいかというと、日本のレジ袋全部を削減しても０．１ぐらいですか。コンビニはスー

パーに比べて１０分の１ぐらいですから、コンビニのレジ袋を全部やっても多分それぐらいかと思います。CO_2の話よりもったいないという話でこれが言われているのだと思います。

今、おっしゃるように、CO_2の話でするんであれば、さっきの冷蔵庫の話がありましたけれども、私どもも空調機を１台入れかえたら、古いのと新しいのではもう半分以上電気代が下がったというのがございます。それを優先してやっていけば、夜間営業のときの照明で３％、４％をやるよりももっと減るという事実がありますので、そちらの方に投資するということを選択してやっていけばいいのです。

今井　ありがとうございます。一つ、ここで深夜営業の話が出ますと必ず、この間も私はこのコンビニの話を昼の放送でやりましたら、すぐに、ＮＨＫの深夜放送こそ問題だと。深夜放送をなぜやめないのかという電話がかなりたくさん来たそうです。

それについて触れますと、篠崎さんの話にありましたように、ライフスタイルの問題もあるのかと。ただ、そうは言いましても、ＮＨＫも渋谷にある放送センターは東京都内の業務部門で６番目に温室効果ガスの排出量が多いという不名誉な地位あります。これは東京都さんの削減義務の対象になりますので、何とか対策を強化していかなければいけないということで、深夜放送については、今年１０月から教育テレビの放送終了時刻を一部繰り上げて、放送時間を短縮しています。その上で、放送をやめている時間のアナログ波の送出を初めてとめることにしたそうです。放送をやめても電波を出しているとCO_2削減にはならないそうです。今後も教育テレビやラジオ第二の放送などで休止時間の拡大は検討していくということです。

ただ、衛星放送や総合テレビで深夜放送をやめるということになぜならないかというと、やはりどうしても緊急災害が起きた場合にすぐ報道しなければならないという重要な使命がありますので、電波をとめていると火起こしをするまでにやはり時間がかかります。地震が起きたとき、皆さんがテレビをつけても放送していないという状況になりますので、なかなか今やめるということにはならない。これからの皆さんのライフスタイルをどうしていくかとか、いろいろなメディアの展開もあわせて考えていかなければいけない話です。

これはコンビニさんも同じで、私も記者時代、毎日帰りが２時、３時でした。コンビニさんがなければあした食べるものもないという生活をしていましたので、そういうライフスタイルも合わせてこの深夜の問題は考えていかなければいけないのかというふうに思っております。

済みません、お待たせしました。山川さん、家庭も今まで話に出てきたように、皆さん何らか取り組まなければいけないという意識は高いのになかなか成果に結びついていかない。これはどういう問題があって、どういう対策が有効なんでしょうか。

山川　私がいろいろな講座等でお話をするときに必ず冒頭申し上げることは、皆さんは御自分のお宅で毎月電気代、ガス代をどれだけ払っているか、もしくは量で把握していますか？手を上げてくださいということです。

きょうお集まりの方はかなり省エネ意識の高い方とお聞きしていますので、多分９割ぐらいの方が御存じではないかと想像しているのであえて聞きませんけれども、先日は５０名ぐらいのところに３人ぐらいしか手が上がらなかったような会場もありました。自分の家がどれだけエネルギーを使っているかを把握しているというのが第一になると省エネの第一になると思います。

機器をつけて把握する方法はもちろんあるんですけれども、今すぐにでもできるものというのが、電力会社、ガス会社などから毎月必ず送られてくる検針票での確認です。

きょうは私の家のものを持ってきました。東京ガスさんですとこういうものですね。東京電力さんですとこういうものです。これが、銀行引き落としであろうと何であろうと必ず入っています。ここで、その月の使用量ももちろん大事ですけれども、ぜひ見ていただきたいのが去年の同じ月の使用量です。東京電力さんですと、真ん中のこの辺に小さい字ですけれども書いてあります。これを見て、去年と同じ月、季節が同じぐらいの月とどれぐらい違うのか、多かったのか、減ったのか、まずそれに思いをめぐらせていただきたいと思います。東京ガスさんの方の請求書の方にも同じく前年同月の消費量というのが必ず出ています。

もし減っていたら、そういえば今月は１週間旅行に行ったなあとか、増えていた場合は、お客さんがたくさんいてエアコンを随分長い時間つけていたなとか、そういう理由がおのずと浮かんでくるんですね。それ以外の理由で何でこんなに増えてしまっただろうとか、そういうことをまず考えるだけでも随分違うと思います。これがまず省エネの第一歩ではないかと私は思っています。

自分の家の消費量がわかったとなると、次に気になるのは、自分の家は使い過ぎなのだろうかという疑問が多分浮かんでくると思います。よその家はどうなんだろうということですね。近所の方とお話し合いをしていただいてももちろんいいんですけれども、余り自分の家の光熱費などは言いたくない場合もあると思います。

便利なシステムがあります。これは東京電力さんがインターネットでサービスしている“電気のシェイプアップカルテ”というものです。御本人がここに書いてある自分の家のＩＤ番号などを入力しますと後日パスワードが送られてきて、それを入力するとあなたの家の２年分の電気の消費量というのがグラフで出てきます。また、同じアンペア数のお宅の平均値も示されています。

うちは小さい家なので３０アンペアですけれども、折れ線グラフの方が３０アンペアの東京電力管内の平均値です。棒グラフが我が家の２年分の消費量ということです。うちはこういう仕事をしていますので当然ですが、相当平均値よりは低いというのがこれでわかります。３０アンペアの家が、

すべて同じ大きさか、家族人数、ライフスタイル、もちろん同じではないのですが、一つの目安として、自分の家は使い過ぎているのか、そうでないのかというのを知る一つのいいツールだと思います。

残念ながら東京ガスさんはほかと比較するものがないのですが、同じく登録をすると２年分の消費量というのが一覧表で出るようになっています。

こういうものを使って、自分の家が使い過ぎかどうか、省エネをしなければいけないのかどうかというのを考えるきっかけにしていただければと思っています。

これはエコワットというものです。測りたい機器とコンセントの間にこの機械を入れると、入れたときから使っている電気の消費量が表示されます。今井さんのお宅の診断もこれを使わせていただきました。これは、東急ハンズなどで 3,000 円ぐらいで売っています。

詳しく調べたい人は、これがワットアワーメーターというものがあります。少ない電力量まで測れるので、待機電力などもこれではかれます。これは２万円ぐらいします。

こういった機械を使えば機器ごとの消費量というのがわかって、うちはエアコンの量がよそよりはすごく多いとか、家にいないのにこれだけ電気を使っているといったことがわかります。自分の家の消費量を正確に把握して、同時に効果を数字で確認するというのが省エネを継続していく基本というか、大事なものだと思っています。

省エネをやりたいと思っているけれども、何をやったらいいのかよくわからないというようなお話もよく聞きます。参考情報として、ある調査結果をご紹介します。どの用途で使っているエネルギーが一番多いと思いますかというアンケートをとったものがありまして、東京理科大学の井上研究室で調査をしました。

暖房が４０％、冷房３０％、給湯１６％、照明・家電１４％、これが皆さんの考えるエネルギー消費の割合でした。

実際の消費割合は、この認識と大きく違っています。まず４０％と出ていた暖房は２７％、３０％と認識されている冷房はわずか２％です。そして１６％の給湯は２８％、国の統計には厨房というのが入っているのですが、それを除いた照明やテレビなどの動力が３７％、これが統計データです。認識では１４％ということで、かなりの認識との開きがあったのがこの調査でおわかりになると思います。

私どももそうですし、マスコミさんなどもそうですけれども、夏の冷房期間の省エネキャンペーンというのは相当多くあって、夏はやはり省エネをしなければという意識が皆さんにすり込まれていると思うんですね。ですが、実際には暖房の方がずっとエネルギーがかかって、この冬こそ省エネをやらなければいけない。省エネをやって効果が出るというのは暖房です。

冷房は、国の推奨温度は２８℃ですが、夏の外気温というのは３２℃とか３３℃ぐらいで、恐らく４～５℃室内の温度を下げることで快適になるだろうということになります。一方、暖房は、政府の推奨温度２０℃に対して外気温は１０℃とか、５℃とかになって、１０℃、１５℃分エネルギーを使って部屋の中を暖めなければいけないということです。当然暖房の方がエネルギーを使うということになりますが、この辺の情報がなかなか行き渡っていないという

のが実態です。

それから、また今井さんの話で恐縮ですけれども、やはり機器の買いかえというのが大きな省エネ効果をもたらすということが、まだまだ行き渡っていないと思っています。エアコンに関していえば、約１２年前のものと現在ものを比較すると４０％も省エネになっております。機器代自体は省エネ効率のいいものの方が高いんですが、月々の電気代に換算していくと、５～６年でほぼ元が取れるだろうと言われています。もちろん古いものを大事に使うという気持ちは大切だと思いますが、買いかえによる省エネ効果というのは大きいというのを知っておいていただければと思っています。

もう一つ省エネで大事なのは、家そのものの省エネ性能を上げるということです。幾ら省エネ性能の高い機器を使って、省エネ行動を心がけていても、家自体がすき間風だらけで、断熱材が入っていなければ、せっかく暖房してもどんどん暖かい空気が外に逃げてしまうというようなことが起きてはとてももったいないことです。家自体の省エネ性能を上げるというのももう一つの重要な視点です。リフォームをしたり、家を買いかえたりする機会というのは一生にそうあるものではないので、すぐ取りかかれるものではありませんが、ちょっと頭に入れておいていただければよろしいかと思います。

さきほどから北風と太陽の話が出ていますが、北風か太陽かと決めることはできないと思います。自分の暮らしは自分で決めたいじゃないですか。それを人から毎日のエネルギー使用量をこれだけにしましょうなどということを言われて、はいという気分になる人は多分いないと思うんですね。

自分の暮らしは、自分の生き方そのものだし、子供たちと、親たちと、だんなさんとどうやって過ごすか、そのものだと思います。暮らしをどうやっていくかというのはやっぱり自分で考えるべきだと思っています。CO_2を削減しなければいけないという認識が高まっている中では、省エネ行動を起こすことが当たり前なんだという考えが求められている。そういうことをやっぱり考えていかなければいけないのではないかと思います。

今井　ありがとうございます。今の家自体の省エネ性能を上げる、あとは太陽光発電を導入する、これは非常に大切だと思うんですね。省エネ家電については、いずれ家電製品は壊れるわけですから、多分買いかえは長期的に見ると進んでいく。けれども、家の省エネ化というのは非常にお金がかかるので、こういうところではぜひ行政の方に、先ほどは東京都さんの方で太陽光発電の補助金の話がありましたが、政府あるいは自治体の役割は非常に大きいのかと思います。

北風か太陽かというお話では、皆さんに共通しているのは多分気づきということ、見える化ですね、そこを大事にしていけば、

北風でなくても取り組めることはまだまだあるということではなかったかと思います。

では最後に、無理なく二酸化炭素の削減にどうやったら取り組めるのか、具体的なアイデアを考えていきたいと思います。皆さん、それぞれ自分自身が率先されていることも含めて、どういうアイデアがあるのか伺えればと思います。まず、高木さん、お願いいたします。

高木　なかなか難しい問題ですけれども、長期的な2050年までに５０％削減とか８０％削減というのは、本当に実現可能性があるのかどうかというのは別として、それを進めていくためには、今政府が提唱している低炭素化社会というものをつくっていかなければいけないということは事実だろうと思うんですね。その際に、今山川さんが言われたような省エネとか、あとは企業の方々にいろいろな取り組みをしていただく、あるいは機器の買いかえとかリフォームとか、そういう技術的な面での対応というのはもうそれはそれでやっていかなければいけないことは間違いないと思います。ただ、それだけで低炭素化社会というのはできていかないのではないかと思います。

１年ぐらい前に、富山市が富山ライトレールという格好いい路面電車をつくって、それがＮＨＫのおはよう日本で紹介されて、富山市長さんが出演されていたんですね。そのときに富山市長さんが言われたのは、私はこれを温暖化対策でやったわけではありません、ただ、ライトレールをつくった結果、道路交通量が減りました。結果として温暖化対策になりました。これでいいのではないでしょうかと言っていました。私としては、これはなるほどという感じがしまして、それ以来、温暖化対策でない「温暖化対策」をやっていこうとか、結果としての「温暖化対策」を進めようといったようなことをいろいろなところで言っています。

私どもの団体の前理事長が健康づくりの団体の理事長も兼ねていましたので、ある日、私を呼び込んで、今、健康づくりの方で２キロメートルぐらいのところまでは車などを使わずに歩いていこうという運動を考えているけれども、これは温暖化対策なのではないかというような話がありました。確かに車を使わないというようなことで温暖化対策になるわけですね。でも、それは健康づくりなんですね。健康づくりをやると生活習慣病が少なくなり、医者にかかる人が少なくなってくる。そうすると医療費も下がるわけですね。それに加えて温暖化対策になる。

やっぱりこういう形の対策じゃないといろいろな人の参加が得られないのではないかというようなことを非常に強く思いました。それでそのような対策というのがあちこちで、いろいろな分野でできないのかと思っています。いろいろの分野の人が、温暖化対策ということでやっていただかなくていいわけですけれども、結果的に温暖化防止につながることをやるということがあれば、我々としても楽しい、住みやすい社会ができて、しかも温暖化対策になる。こんないいことはないというようなことを思っています。

いっぺんに変革をやることはなかなか難しいので、小さな事例ですね、きっかけとなる成功事例をいろいろなところでつくっていっていただくと、非常にいいかなと思っています。

ほかの例としては、フードマイレージというのがありますね。要するに外国から運んでくるのと近くから持ってくるのでは輸送のエネルギーが違いますから、遠くから運んできたものはそれだけエネルギーをたくさん使っており、エネルギーを食べているというようなことがありますので、フードマイレージを考えて買おうというような運動も「大地を守る会」とかがやっております。フードマイレージを考えて、地元のものを消費するというような意識になってくると、地産地消となり、地域の農業と顔の見える関係ができます。すると何となく地域農業の振興につながるみたいなことも少なからずあります。

あるいはハウス物をできるだけやめて、旬の時期に旬のものを食しようと呼びかければ、旬産旬消ということになります。それも地域農業と関係します。

あるいは地域で使われていないゴミですね。そういう未利用資源というか、地域で厄介モノとなっているようなもので、処分に困っていたようなものに少しアイデアを加えて資源として活用でき、ほかのいろいろなものでつくられたものと替わっていければ、それは温暖化の対策にもなるし、また地場産業みたいなものも生まれてくるかもしれません。

私は今親と一緒に住んでおりますけれども、冬は一日中部屋に入って、こたつに入って、暖房をがんがんつけているわけです。私どもの冬の電気代のかなりの部分はその親の暖房の電気代なんじゃないかと思っていますけれども、そういう年寄り－我々もそういう時代にだんだん入っていくわけですけれども－が、地域で、コミュニティーで、外に出ていろいろな活動ができるような場ができれば本人にとっても非常にハッピーだし、健康にもいいから医療費も下がるし、地域との顔が見える関係ができるというようなことが起こるわけですね。

そういうのが温暖化対策というか、見えないところでの結果としての「温暖化対策」のいいところなのかと思います。価値としては全然別のところを求めていて、よりよい社会をつくっていくというようなことと、その結果としての「温暖化対策」、こういうものがうまく結びつくと楽しい温暖化対策ができるのかと思っております。

今井　ありがとうございます。

では次は岡部さんですけれども、都民に期待すること、どういった対策を期待するのか、また御自分で持ち込まれている対策等がありましたらお願いいたします。

岡部　東京都で家庭向きの対策としてやられていることで、白熱球一掃作戦、省エネラベル制度というのがございます。

自分なんかも今、お店に入ってもまず照明を見て、あれ、白熱球かな？　みたいな感じで、何か職業病みたいな感じで見てしまうところがあります。先ほど来お話がありましたように、白熱球を電球型蛍光灯にかえるだけで、大体消費電力が４分の１から５分の１、寿命も６倍ぐらい伸びるというものでございます。東京都は去年の夏ぐらいから白熱球一掃作戦、大層な名前をつけておりますけれど、そういう作戦を展開させていただきました。照明というのは家庭においてはかなりな電力消費のシェアを占めてございますので、電球型蛍光灯にかえていただくということで、コンビニさんやスーパーさんや電気店さんなんかに協力

いただき、販売していただくということや、キャンペーンなどもお願いいたしまして、今年の春にはポスターを張るなど普及啓発に努めてきているところでございます。

数字でございますけれども、１日５～６時間つけるところで３年で 6,000 時間、電球型蛍光ランプでしたら３年ぐらいはその１個で済みますけれども、白熱球ですと６個ぐらい、消費電力は先ほど言いましたように４分の１から５分の１ですから、８～９カ月ぐらいで費用対効果が逆転いたしまして、大体３年で約 5,000 円ぐらい家庭としての懐が暖まるというような統計数字もございますので、結構長い時間つけている白熱球がありましたら、電球型蛍光灯に取りかえていただければと思います。

また、家庭ですと、電力が高いエアコン、冷蔵庫、テレビにつきましては、東京都は平成１４年から省エネ基準達成率を５段階に区分した相対評価、ランニングコストを表示する省エネラベルキャンペーンというのを展開させていただきまして、１７年７月からは、そのような品目を５台以上陳列販売している電気店さんにつきましては省エネラベルを張ってくださいというふうに、条例の方で規定してございます。

このラベルは１８年１０月から全国統一の省エネラベルということで国の方でも規定いたしまして、東京都もその統一ラベルに合わせて、今も条例で省エネラベル制度というのを継続しております。

先ほど今井様の話にもありました冷蔵庫の関係ですが、自分も今の職についてから冷蔵庫が壊れまして、買うときには星が幾つあるというものを参考に買わせていただきました。やはり省エネに効果があるというのと同時に懐にも優しいという効果もございます。壊れたときに買いかえるという話がありましたけれども、買いかえのタイミングではぜひそういう省エネラベルも参考にして、特に家庭で電気消費量の高いエアコン、冷蔵庫、テレビなどには省エネラベルが電気店に張ってございますので、参考にしていただければと思います。

そういった細かい表示や情報なんかが出ております。パネラーの方からもいろいろとお話がありましたけれども、家庭の中でも省エネという意識を持って見ていただくと随分気づくことがあるかと思いますので、そういった姿勢で省エネに取り組んでいただければと考えてございます。

今井　ありがとうございます。

次に篠崎さん、お客さんに期待することは何でしょうか。それと、買い物をする中で、御自分自身で取り組んでいらっしゃることは何かありますか。

篠崎　お客様に期待するなんて大変おこがましくて、私の方からはそんなことは申し上げられませんけれども、これも先ほど申し上げましたように、余り今までいいことをしてこなかったのですが、最近自分自身で取り組んでいることは、多分皆様と同じようなことだと思いますけれども、車に乗るのをかなり控えているつもりでした。きのう出張から帰ってきましたら、うちの家内から、お父さん、バッテリーが上がっちゃったと言われまして、それぐらい最近は車に乗っていなかったなというところがあります。

私どもは企業でございますので、お客様に言う以前にまずみずからがきちんとしないといけないだろうということを思ってお

ります。みずからを正すという意味で、冒頭申し上げましたように、自分でこういうことをしますと、これだけの排出量を削減しますということをきちんと世の中に言ってからでないと、余り偉そうなことを言えないんじゃないかと思っております。

先ほど私どもが省エネで何をしているのかというのは御説明申し上げましたけれども、まずお客様と一緒になってこういうことができないかと。私どもは 8,600 店舗ございます、子会社の SHOP９９まで入れますと 9,400 店、１日 800 万人のお客様がいらっしゃるということで、このお客様と一緒になってどういったことができるかというようなことを一つ考えるのかと思います。

それがこのページの中でいきますと５ページ～１４ページぐらいにずっとお客様とともにという形でいろいろと書いておりますけれども、最近始めたのではCO_2オフセット運動で、これもローソンのポイントでCO_2の排出量が削減できるという話です。

ケータイ運動ということで、きょうは皆様の方にこの冊子と一緒にエコバッグを入れております。この中のページでいきますと７ページのところにいろいろと出ておりますけれども、これはコンビニ用のエコバッグということで、私も今ポケットに入っておりますからすぐ出てきますが、いつでも携帯できます。スーパーに行くときは、皆さんはエコバッグを持っていくことができると思うのですが、コンビニに行くときはふらっと立ち寄るものですから、なかなかエコバッグを持っていません。でもお弁当を買ったり、飲料を買ったり、デザートを買ったりするとないわけにはいかないということで、やはりエコバッグを普及させなければいけないだろうということでいろいろと探したのですけれども、どうも大きいスーパー向けのものしかないということで、小さいコンビニ用のものを開発したということでございます。

あけていただければわかりますけれども、お弁当がぴたっと入るようにかなりマチをとってございます。中に小さな内ポケットがついておりまして、その内ポケットにこのペットボトルを入れていただくと、ぴったりおさまってお弁当を持ってペットボトルを持っても中でお弁当がぐらつかないという大変なすぐれものでございますので、ぜひ御活用いただきたいと思います。

あとは携帯のはしとか、緑の募金というようなこともお客様からいただきながらまた一緒になって緑化活動をするというようなこともあり、何か皆様と一緒になって環境にいいことができればなということを考えています。

先ほどの北風か太陽かというのがございましたけれども。申し上げましたように私どもが北風なんか吹かせたらお客様は来なくなってしまいますので、どちらかと言えばもうお願いして、そういうものをぜひ御活用くださいということです。

ただ、先ほど山川さんのお話にもありましたように、言われてからやるというよりも、私はこういうことをしているよ、あなたはしていないのということで、矜持といいますか、プライドを持って一人一人が進めていくようになればもっともっと広がっていくのではないかと思っております。以上です。

今井　ありがとうございます。よく女性と比べると、男性の方、特にスーツ姿の方はまだマイバッグを持つ割合が少ないと

いうふうに耳にします。でもこういう小さいものですと簡単にポケットに入り、男性の取り組みも進むのではないかと期待したいと思います。

では最後に山川さん、お願いいたします。私は、山川さんのお宅の電気代を聞いて、余りにもうちと違い、余りの低さにびっくりしたのですが、どういう実践をされているのかを含めまして、具体的な省エネのノウハウ、取り組めるコツというのをお聞かせいただければと思います。

山川　私の家は夫と二人暮らしで、狭いマンション暮らしで、二人とも働いていて、ほとんど寝に帰るだけというような生活なので、平均よりも少な目に出るのは当たり前ではあるのですが、電気代は、冷房、暖房を使わない月だと 3,000 円台です。ガス代も、冷房暖房を使わない時期だと 2,000 円いく月はないぐらいですので、大体の方はびっくりされます。相当省エネ型の生活です。

無理をしていることは全くないです。実家で子供のときから、ドアは閉めなさいとか、カーテンのすき間があいているとか、そういうことは割とうるさく言われていたので自然に身についているのかと思います。我慢しているつもりは全くなく、淡々と毎日同じ作業を繰り返しているという感じです。

具体的には、待機電力は全部カット。出かけるときは冷蔵庫以外は動いていないというような状況になっています。一々プラグからコンセントを抜くのは面倒ですので、タップをつけて、手元で入切するようなものをあらゆるものにつけています。照明も電球形蛍光ランプはもちろん使っていますし、細かい話ですけれども、調光機能つきのランプは寝るときは調光機能で消しますが、出かけるときはちゃんとスイッチで消します。

以外と知られていないのが、便座暖房、あれはふたを閉めるだけでも効果が全く違う。便座から暖かい熱が出ていってしまいますので、ふたを閉めるだけでも違います。最近の暖房便座ですと省エネモードとか、お任せ節電モードとかいろいろなモードがついていますので、日中家にいないのが毎日続くような方は省エネモードにするなど賢く使うというのも一つだと思います。

私は仕事柄ですが、家電製品などのカタログ集めと取扱説明書を読むのが大好きで、新しい機器は今度何を買おうかと思い各社のカタログをそろえて、消費量などを全部一覧表にしてしまうぐらいよく調べます。冷蔵庫は壊れていないのですが、次に買うときはこれにしようという形で、チェックをします。

取扱説明書にはいろいろな省エネモードが書かれていますので、それを徹底的に調べます。ＤＶＤなども時計の表示をなくすだけでも消費電力は減ります。非表示モードというのが恐らく今の機器にはありますのでそういうものを使ったり、最近の電子レンジや洗濯機は一定時間さわらないと自動的にオフするようなものがありますので、そういうモードをちゃんと使うなどです。もっとわかりやすい情報提供も必要ですが、自分で探せる情報は頑張って探していくというのが必要なのではないかと思っています。

あとは、身近にきょうからできるものというと、そろそろ暖房を使う方が出てくる

と思うんですが、やはり窓周りを手当てすることで暖房効果が高まります。壁に比べて窓は非常に断熱性能が弱い部分ですので、そこの断熱性能を上げるだけで、暖房の設置温度が低くても同じ快適さが得られるということになります。具体的には、カーテンをちゃんと閉める。それぐらいのことから始めればいいと思います。

あとは、カーテンと床の間がちょっとあいているというのは結構あると思うんですけれども、そこに、クッションを置くとか、そういうことだけでも冷気が伝わらないのがわかると思います。おやりになってない方がいらっしゃったら、きょうからやっていただきたいと思います。

やはり省エネ、環境に配慮する生活というのは自分で考えてやっていかなければいけないことだと思いますし、そういう生活がもう当たり前、格好いい、時代の先端をいっている生き方、そういうものでなければいけないと思います。私どもも含めて、行政やマスコミはそういうイメージづくりにも、もっと力を入れて、やっていかなければいけないと思っています。

先ほどクールビズの話が出ましたけれども、クールビズがあれだけ成功したというのは、やはりメーカーも巻き込んで、格好いい省エネスタイルというのをみんなに提案して、それが受け入れられて、実際にネクタイをはずして上着を脱いだら、何だ、涼しいじゃないかとみんなが実感したので、ではやろうということで広がっていったすごくいい例だと思うのです。マイバッグもそうです。おしゃれな機能性のいいマイバッグが出ることで、使ってみようかということになっていくと思うので、もっとそういう格好いい仕掛けとか、おもしろい仕掛けとか、いいねって思えるような仕組みづくり、仕掛けづくりを私たちはこれからももっとやっていきたいと思っています

今井　ありがとうございました。いろいろと具体的な取り組みのアイデアが出てきたかと思います。

少し食い込んでしまったのですが、会場の皆様から御質問をお受けしたいと思います。この方に答えていただきたいということがありましたら具体的におっしゃっていただければと思います。では、御質問は何かありませんか。

〇〇　きょうは貴重な御報告をいただいてありがとうございました。エコバッグをいただいてすごく感動しています。というのは、ローソンさんが配っているのは知っていたんですけれども、なかなか配っているコンビニに出会うことがなくて、きょう初めて見て感動しました。ありがとうございます。

質問ですが、２点あります。まず一点目は今井さんにお聞きしたいんですが、家庭で二酸化炭素排出量削減を実施したときに、

電力の消費がすごく多かったのでこちらの削減に力を入れたというお話でしたが、ごみについては特に改善というか、そういう取り組みはなさらなかったのですか。これが１点目です。

２点目ですが、都の条例の中で、これから企業も報告書を義務づけたり、任意で出してもらうというお話がありましたけれども、これについて企業から数値のデータをもらったり、その数値から排出した二酸化炭素の排出量を報告してもらうことになると思うんですけれども、篠崎さんがおっしゃっていましたが、まずそのデータを収集するのが物すごく大変ということと、そこから二酸化炭素の排出量を算出するのは物すごく難しい計算だと思うのです。環境省で二酸化炭素の排出量、具体的にこういう企業がこういう数字をもとに排出量を計算してくださいという計算式を見たことがあるんですが、とても難しい計算式で私には理解できなかったんですね。

そういうものを報告してもらって、その数字が正しいのかどうかというのをどのように判断するのかというのがすごく疑問です。というのは、企業の方で、排出量が多過ぎて適当にごまかしたりできないのかと。それについては企業の良心に任せるのか、それとも都の方で、企業がデータを出してきたところをちゃんと突きとめて、それが正しいのかどうかを判断するのか、その点についてお聞きしたいと思います。

最後にちょっとお聞きしたいのですが、皆さんの前にあるのはペットボトルの水ですね。私はいつもこういうシンポジウムに出て思うんですけれども、環境問題について語るこういうシンポジウムで、皆さんの前にペットボトルがあるのがすごく違和感があるのです。そういうことについて、どなたでもいいですけれども、何かお考えがあったらお願いします。

今井　ありがとうございます。ペットボトルについてですけれども、確かにそうですね。私も今言われて気がつきました。私は、普段はマイボトルを持って歩いております。ただ、どうしても外に出ると、出していたものはありがたく、そのままいただいてしまって、その点はこれから考えていかなければいけないと思いました。

先ほども控え室でお弁当を食べているときに、ふと気づいたら、篠崎さんがマイはしを持ってこられておりまして、そこでもちょっと反省をしました。

最初の質問ですけれども、ごみについてですが、うちは生ごみはそのまま捨てているので、そういった点での取り組みというはまだまだ改善の余地があるかと思うのですが、お金の問題もあり、生ごみはそのまま捨てています。

今回は、うちのごみの量については、とりあえずそうたくさんではなかったんですね。一応リサイクル、リユースをいろいろとやっていますので、ごみの量自体はそれ

ほど問題ではないということだったので、とにかく問題の電力をどうするかということを最優先に取り組みました。以上でよろしいでしょうか。

２点目は岡部さんでよろしいですね？岡部さん、よろしくお願いします。

岡部　条例の報告書制度についてのお尋ねでございますけれども、まず、計算が難しい、それはおっしゃるとおりでございまして、できるだけ簡単な様式を考えてございます。例えば、電気とガスは先ほどお話がありましたように、支払いをしているときに個票が毎月来ていますので、また、お客様番号がわかれば東ガス、東電さんそれぞれ教えていただけますので、電気とガスについては年間どれぐらい使ったかというのを記入していただければ、それぞれの係数がございますので、自動的にCO_2の排出量が出るような様式を今考えているところでございます。

また、ほかのエネルギー、事務所で使用する灯油、原油、それから水道はどうなのかということはございますけれども、どこまで入れるかというのは今検討してございまして、できるだけ事業者の負担にならない形でありながら、もう一方で、目的が各事業所さんの方でどれぐらいエネルギーがかかっているかというのを認識していただいて、省エネの気づきを与えるという点が観点でございますので、まず認識をしていただくということでございますので、自分がどれぐらい電気ガスを使っているか、その辺からまず初めていただいて、特に削減義務などを課すわけではございませんので、検証の方につきましても、特に考えていなくて、御自分の自己申告で考えてございます。

ただ、一部、中小の方でも取引制度等で自分の削減量を売却したいという方については厳密にはかっていただく必要がありますので、そういう形ついてはまた別のものになってきますけれども、先ほどの報告制度については、まず簡単な様式とそれから御自分が認識していただくことを考えていくといったことでございます。

今井　よろしいでしょうか。ほかに御質問がある方はいらっしゃいませんか。お願いいたします。

○○　山川先生にお伺いしたいのですけれども、私もかなり白熱灯を蛍光灯にかえようとしてはいるのですけれども、数年前に、例えばトイレとか廊下とか、つけたり消したりするのが頻繁なところは白熱灯の方が省エネというふうに伺ったことがあったのですけれども、現在は変わっているのでしょうか。その辺をお伺いいたします。

山川　今、機器改良がかなり進んでいます。それで、おっしゃるように、電球に関しては立ち上がりのときはやはり電力の消費量が上がりますが、現在の照明器具に

ついてはかなりその部分が改善されていますので、基本的に入切は頻繁にした方がいいというように私どもはお話をしています。やはりつけっぱなしの時間の方が圧倒的に長いのではないかというのが私の実感です。

今井　よろしいでしょうか。ほかに御質問はありませんか。お願いいたします。

佐藤　立川の佐藤と申します。先ほど山川先生のお話で、ライフラインからの４収集でもって省エネがわかるというのを私たちも３年続けてやっているんですが、今２４名の女性で「省エネ、１０年ためてハワイに行こう」というキャッチフレーズをつけてやっています。あらゆる東京電力さんと共同して、全部家庭でできる項目で、省エネの部分とそれから毎月の電気の検針でどれだけ省エネができて、値段がどれだけできるかというので、エコ銀行というのを自分たち２４名の中でつくり、銀行に貯金をして、それで１０年たったらハワイに行こうというのをつくっています。やっぱりけちな節約ではなくて、楽しみの節約ができればいいかなということでやり始めたら、

すごくおもしろくて、それで、一番多くためた人で３万 6,542 円というのが最高の省エネだったんですね。それは車に乗らなくなった、燃料費を節約したということと、たばこの煙もあればＣＯ$_2$なのかと思いながら、たばこの節約を御主人にしてもらったというのですが、そのたばこもＣＯ$_2$になるんでしょうか。お聞きしたいところはそこです。その節約をして、東京電力さんと共同してやったら、結構一番多くためた人が３万 6,000 円以上で、平均してやっぱり 5,000～6,000 円の節約が年間できているということで、それをためてハワイへ行くのを楽しみにしているところです。それで、たばことかそういうのも煙が出るからそれもＣＯ$_2$になるのでしょうか。ちょっとその辺を聞きたいなと思っております。よろしくお願いします。

今井　非常に夢のある節約ですばらしいですね。うちなんかはもしかしたら１年でハワイに行けるかもしれない。済みません、お願いします。

高木　炭素のあるものを燃やすと二酸化炭素になりますから、たばこもなると思います。ＣＯ$_2$が出るということだと思います。

佐藤　たばこの節約もいいですね？

高木　やはり温暖化対策としては位置づけられてはおりませんけれども、政府の対策で位置づけるとまずいのでしょう。

山川　それとハワイに行こうというのはすごくいい動機づけだと思います。やっぱり楽しみをつくらないと長続きしないの

で、私もよく、節約できた分で何か家族の楽しみに使うようにしましょうということを言います。１０年計画でハワイに行こうとか、そういう大きな目標を立てるのは長続きの秘訣だと思います。やはり我慢とかつらい思いをしてやることは長続きしないので、大変よい取り組みだと思います。

今井　そうするとたばこはCO_2の削減になるんですか。

高木　理論的にはなるんだと思います。CO_2の削減対策として余り認知されていないので、言いにくいところではありますけれども。

今井　でも健康にもいいですね。

高木　健康にもいいわけです。

今井　ハワイに向けても一歩、一歩進んでいきますからたばこも換算して下さい。

高木　さっきは私が言いました結果としての温暖化対策ということではぜひそれも。

今井　ではお願いします。

矢野　大変いいお話を聞かせていただきましたけれども、最後に明るいお話をと思いまして、昨日省エネについて私たちの大田区で実践いたしましたことをお話しします。大田区の生活学校でございます。

私ども生活学校のメンバーは以前から日常生活の中で省エネということを割合心がけておりました。きょう、先生方のお話の中で、きっかけをつくる、こういうことをつくるといいとか、事例があったらいいということをおっしゃいました。これで８回目なんですけれども、昨日、私どもは大田区でエコフェスタワンダーランドといって、学校と企業と私たち消費者、地域の主婦たちとか一般の者が、子供の遊び道具をリサイクルのものでつくってやるとか、水に対してとか、環境とか、ごみ問題とか、いろいろとそれぞれの立場の人間がやっております。毎年私どもも参加しております。昨日は、東京の生活学校の事務局長さんが見にきてくださいましてありがとうございました。こういう日常の生活の中で地域の人たちに少しでもこういう活動が広がっていけばと思います。きょうはどうもありがとうございました。

今井　ありがとうございます。特に子供さんからということで、子供のときから省エネを体の中にすり込ませていくということは、先ほど山川さんが子供のころからと言っていましたけれども、非常に大切なことではないかと思います。どうもありがとうございます。

それではもう時間になりました。長時間、本当にありがとうございました。きょうは具体的ないろいろなアイデアが出てきたか

と思います。私も、カーテンの下にクッションを置く、これは新しい話でしたので、また取り組んでいきたいと思います。皆さんもきょういろいろと聞いた情報を参考に、御家庭に帰って何か１つでも２つでも取り組む、またそれを地域の皆さん方の伝えていっていただければと思います。どうもありがとうございました。

司会　まだ、ご発言なさりたい方もおられるかと思いますが、時間になりましたので、残念ながらきょうはこれで終了させていただきたいと思います。コーディネーターあるいはパネラーの先生方、どうもありがとうございました。今一度拍手でお礼を申し上げていただきたいと思います。どうぞ、御降壇いただいて結構でございます。

それでは閉会のごあいさつを、社団法人東京のあすを創る協会、柴副会長より申し上げます。よろしくお願いいたします。

あいさつ（柴　俊男副会長）

本日は都民フォーラムに御出席いただきましてありがとうございます。地球温暖化につきましては、これから本当に成果を出して目標を達成するということでありますけれども、とにかくきょうは論議がいろいろとあって、また事例等もありました。楽しく、健康的なよりよい社会をつくる、これからのそういう生活を築く、そういう中で大いにCO_2削減、地球温暖化対策が進められるようにしていきたいものです。先ほどハワイに行く話もありましたけれども、ここにおられる方々もきょうから取り組んでいただいて、ぜひ全員がハワイに行けるように、一つ、まず個人が、それから団体で、地域でそういうふうな活動を進めて、本当に地球を自分たちが救うんだという気概を持って取り組みをしていただきたいと思います。

本日はいろいろな事例がありましたので、それを参考にして、ぜひ取り組みをお願いしたいと思います。さらなる取り組みというきょうのことを皆様方共々確認をして、これで閉会にさせていただきます。どうもありがとうございました。

司会　以上をもちまして、本日の全プログラムを終了いたしました。皆様に御協力いただきありがとうございました。

アンケートにつきましては、入り口でどうぞお出しいただければ幸甚に存じます。よろしくお願いいたします。

（了）